活動報告

県議会の活動報告

条例制定の経過説明

古里・川俣町で、県議会活動報告会を開催していただきました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、初当選以来、多くの支援者らの前での県政報告会を開催できない状況が続いていましたが、流行の「第６波」前の昨年12月に、久方ぶりに支援者の方々の前で近況や県政の方向性などについて話をしました。報告の中では、県政の場で制定を強く訴え、４月からの施行が実現した福島県犯罪被害者等支援条例の内容や台風19号からの復旧、新型コロナウイルス対策など、県政の場で取り組んでいること、政治への思い、志などを訴えました。藤原 二川俣町長や大田光秋自民党県連副会長から祝辞をいただき、激励を受けました。

開催までの準備をしていただいた方々からも励まされ、決意を新たにしました。

コロナ対策の最前線視察

医療関係者の尽力に感謝

新型コロナウイルス感染症の脅威に対し、ワクチン接種とともに、治療薬の開発が加速するなど日常を取り戻すために多くの皆様が努力されています。コロナ感染症対策の最前線では、各種対応に当たる医療従事者らエッセンシャルワーカーの方々の存在があります。第６波による感染拡大、県民生活への影響が深刻化する中、福島薬剤師会の協力で実施している福島県のコロナウイルス無料検査の現場を視察しました。開始前から、検査を希望する市民の方々が数人入り口前で並ぶ中、会場では、黙々と受け入れの準備を進める福島薬剤師会の方々の姿がありました。献身的にコロナ対応に当たる方々の負担が少しでも軽減されるよう、県議会の場でその思いを伝えていきたいと思います。

YouTube Channel 【てっちゃんネル！】

福島県議会議員・渡辺哲也として、「フェイスブック」「インスタグラム」「ツイッター」「YouTubeチャンネル」を開設し、日々の活動や思いなどを伝えています。「YouTubeチャンネル」では、ソロキャンプを通して、福島県が誇る最上級ブランド米「福、笑い」の品質、魅力を紹介しました。

「福、笑い」は14年もの月日をかけてたどりついた「かおり、あまみ、ふくよかさ」が特徴です。福島の豊かな自然と福島の作り手の思いの結晶をぜひ味わってほしいです。

詳しくは、YouTubeの「てっちゃんネル！」をご覧になってください。

てっちゃん calendar 2021.12-2022.3

2022年1月
2022年の活動は大雪の中でのスタートとなりました。元日早朝から、福島市下飯坂地区の熊野神社の例大祭に参列させていただきました。宮代地区の日枝神社、瀬上町の青柳神社にも参詣。コロナ禍からの一日も早い県民生活の回復などを願い、県議会議員として全力で取り組むことを誓いました。

2021年12月
大相撲大波三兄弟福島後援会として、大相撲初場所で新入幕を果たした大波三兄弟次男の若元春関に化粧まわしを寄贈しました。贈呈式は福島商工会議所で行われ、同後援会の渡辺博美会長、母校・学法福島高校友会長で同後援会の作田謙太郎幹事長らとともに、後援会幹事として出席しました。今後も大波三兄弟のさらなる活躍に期待しています。

2022年1月
飯坂ロータリークラブ（RC）の初釜式に、同RC会員として参加しました。お点前をいただき、新春の誓いを新たにしました。

2022年3月
福島市で開かれた「第14回全日本総合武道選手権大会」に大会最高顧問を任じられ、開会式等に出席させていただきました。コロナ禍の中、そして、大会直前に最大震度6強を観測した地震が発生した中、大会開催を実現させた菊地信弘大会会長・全日本総合武道連盟理事長ら関係者の思い、尽力に感動しました。心技体の鍛錬を積み重ね、大舞台に挑んだ選手の頑張りにも勇気をもらいました。

2022年1月
自民党県議会議員会として、福島県に新型コロナウイルス感染症の新たな対応を求める緊急要望を行いました。内堀知事への要望書の提出に際し、政調副会長として同席しました。要望事項は①まん延防止等重点措置の全県への適応②オミクロン株の特性、感染拡大状況を踏まえた柔軟な対応策の構築③飲食店の支援に加え、飲食業周辺事業者に対する支援の三点でした。

てっちゃんの目④ 花見山

趣味のウォーキングでは、春夏秋冬ごとにお気に入りのスポットがありますが、春のお気に入りはやっぱり「花見山」です。春色に染まる桃源郷を歩く時間に贅沢さを実感します。山桜、ハナモモ、モクレン、レンギョウなど咲き誇る花々と残雪残る吾妻連峰とのコントラストは春の福島を代表する情景でもあります。花見山公園をつくりあげた故・阿部一郎さんの遺徳に思いをはせます。マナーを守り、故郷・福島の豊かさと先人の思いに触れながら、訪れてほしい名所です。

最新情報はオフィシャルSNSで随時更新します
フォロー・チャンネル登録をお願いします

YouTube Channel 【てっちゃんネル！】
https://www.youtube.com/channel/UCXqHlylesHDjFb_xXHK9r7A/featured

渡辺てつや Official website
http://www.watanabe1976.jp/

Twitter
https://twitter.com/tetsu_wata1976

facebook
https://www.facebook.com/watanabe1976

Instagram
https://www.instagram.com/tetsu_wata1976/

県政新聞 哲也がゆく 第4号
KENSEISHINBUN

渡辺てつや　事務所
てっちゃんと福島をつくる会
事務所
〒960-0101 福島市瀬上町字行人堂1-3 オフィスオバラ1-A
TEL 080-2839-0109
FAX 024-524-1035
E-mail watanabe1976@watanabe1976.jp

県政新聞Vol.4の紙面
震度6強地震対応　1
若隆景初V　1
2月議会一般質問　2
要望が実現しました
飯坂トンネル　2
てっちゃんネル！
福、笑いで、ソロキャンプ　4

震度6強、被害甚大

現地調査、支援要望に注力

東日本大震災から丸11年が経過して間もない３月16日午後11時36分ごろ、本県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生しました。福島市は震度6弱を観測。地震発生を受けた対応で、17日に予定されていた２月県議会の総括審査会が中止となったことを受け、同日から福島市内各地などで被災状況を確認する活動を続けました。

福島市飯坂町茂庭地区の国道399号の落石現場や飯坂温泉の宿泊施設の損傷、同市飯野町の精密加工会社の社屋の損壊などを確認し、県や自民党県連に報告、迅速な対応を求めました。同市置賜町の飲食店では、発災直後から割れた食器類の片付けなどに追われる店主の姿があり、早期再開に向けた思いや要望などを伺いました。

▲食器類の落下などの被害を受けた飲食店を見舞いました（3月17日・福島市置賜町）

自民党県議会議員会の政調副会長としても、昨年２月の地震の際と同じく、大きな損傷を受けた相馬港（相馬市）や道の駅国見あつかしの郷（国見町）、一部損壊により、通行止めとなった国道399号の伊達橋（伊達市）などを現地調査し、被災状況を詳細に確認。関係者の方々からは、度重なる地震被害を踏まえた改良復旧の必要性、グループ補助金の適用などの要望を受けました。

▲段差や液状化現象が発生した相馬港の被害状況について県側の説明を受けました（3月25日・相馬市）

▲通行止めとなっている国道399号の伊達橋を現地調査しました（3月25日・伊達市）

自民党県議会議員会としては①ライフラインの早期復旧・被害者等に対する支援②中小事業者等への支援③公共土木施設等の早期復旧④原発の安全対策の強化を求める緊急要望書を内堀雅雄知事に提出しました。自民党の要請活動を踏まえ、政府は本県の被災した中小企業を「グループ補助金」の対象とすることを決定しました。

若隆景初優勝

後援会でエールを送る

大相撲春場所千秋楽は３月27日、エディオンアリーナ大阪（大阪市）で行われ、学法福島高の後輩で関脇の若隆景が優勝決定戦の末、初優勝を飾りました。大波三兄弟福島後援会として、毎場所、JR福島駅西口の大型ビジョン前で応援してきましたが、この日の千秋楽には大勢の市民の方に参加いただき、大声援を送ることができました。優勝決定戦で、若隆景が勝った瞬間の会場の一体感、感動は一生の思い出に残るものとなりました。夏場所で大関取りを目指す若隆景に加え、次兄の幕内・若元春、長兄の幕下・若隆元の大波三兄弟のさらなる活躍に期待が膨らみます。相撲ファンにとどまらず、大勢の市民、県民の応援を願います。

コラム Vol.4

思いは、それを継ぐ者がいる限り、決して消えない。福島の復興を願い続けてきた人々の意思は、確実に次世代に受け継がれている。２月県議会の一般質問で、福島の未来にかける思いを内堀雅雄知事に尋ね、知事が応じた震災、原発事故から11年という月日が経過する中、復興をけん引してきた人たちが志半ばで一人、また一人と亡くなっていくことに不条理さを感じていた▼今年に入り、古川道郎元川俣町長や菊地臣一前福島医大理事長・学長と、未曽有の災害発生時から、それぞれの分野の復興の最前線に立ち、心血を注いできた人たちが旅立った。一人の人間として、多くのことを教わった師と慕う方々だった。病に倒れても、命尽きるその時まで福島の一日も早い復興を願っていた姿、熱く献策を語る姿が脳裏によみがえる▼コロナ禍が県民生活に深刻な影響を与える中で、３月16日、本県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生、止まない余震の連鎖に、不条理さへの思いが増していた。その心に突き刺さる言葉があった。「震災から11年たってもまだまだ復興が進んでいないところもある。自分が土俵でできることを精いっぱいやっていく姿を届けたい」。大相撲春場所で初優勝を果たした若隆景は優勝インタビューで古里・福島の復興への思いを明かした▼福島の復興への思いは紛れもなく、次世代へと受け継がれていた。身長181㌢、体重130㌔。大相撲の世界では決して大きな体ではないながらも、正攻法から全身全霊で相手力士に立ち向かう若隆景の姿に、幾重の災害に立ち向かってきた本県の姿と重なり、励まされた。復興に人生を捧げた先人の思いに応えられるよう、県政という土俵の上で全力を尽くしたい。

（渡辺哲也）

自由民主党 福島県議会議員会　第201号

自民党 第201号 県会報告

2月県議会 定例会　会期 2月14日(月)～3月22日(火)

新型コロナウイルス対策の基本を堅持し次のフェーズへ進める

2月定例会は新型コロナウイルス感染防止対策を講じたうえで開会され、令和4年度一般会計当初予算や、県政当面の重要な案件について審議し、条例や意見書など107件を可決いたしました。

自民党議員会からは、代表質問1名、追加代表質問1名、一般質問8名が登壇し、新型コロナウイルス感染症対策や新総合計画スタートの初年度となる令和4年度の取組についてただしました。また、3月16日の地震を受け、17日、18日に予定していた総括審査会を中止とし、各地の被害状況の確認と情報収集にあたることといたしました。

令和4年度一般会計当初予算　1兆2,677億円
うち復興・創生分　2,429億円

【主な内容】
- 健康長寿ふくしま推進事業（3億6,105万円）
- 県立高等学校再編整備事業（施設）（11億5,268万円）
- ヤングケアラー支援体制強化事業（1,523万円）
- みんなで実現、ゼロカーボン福島推進事業（1億2,944万円）
- 廃炉関連産業集積基盤構築事業（1億2,115万円）
- 新規就農者育成総合対策事業（11億1,790万円）
- 「来て。乗って。」絶景、只見線利活用事業（2億91万円）
- ふくしまの漁業の魅力体感・発信事業（1億4,080万円）

自民党議員会が提出し可決した意見書・決議
- 地域の特性と東日本大震災の影響を最大限に考慮した衆議院小選挙区の区割り改定を求める意見書
- 多核種除去設備等処理水の処分に関する国民・県民の理解醸成に向けた取組の強化を求める意見書
- ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議する決議

代表質問（令和4年2月21日）

自民党議員会を代表して、幹事長の**西山尚利議員**（福島市選出）が登壇し、代表質問を行いました。

Q水素社会の実現に向け、どのように取り組んでいくのか。
A 内堀知事
トヨタ自動車株式会社と検討を進めている水素を活用するプロジェクトについて、現在開発が行われている燃料電池トラックの県内での大規模な運用を今年中に開始することを目指す。また、より多くの県内事業者の参画を促進するため、燃料電池トラックなどの運用に要する費用の一部を支援する。

Q様々な困難を抱える生徒への支援を強化すべきと思うが、県教育委員会の考えを尋ねたい。
A 教育長
多様な生徒の受け入れが想定される九校を新年度から拠点校に指定し、不登校や発達障がい、ヤングケアラーなどの生徒の支援のため、個別支援教育コーディネーターを新たに配置し、学校と家庭や福祉等専門機関との連携を深め、総合的な相談体制や校内の指導体制の強化を図る個別支援教育に取り組む。

Q県内企業の廃炉関連産業への更なる参入に向け、どのように取り組んでいくのか。
A 商工労働部長
新年度は新たに、廃炉関連産業コーディネーター及び廃炉技術指導アドバイザーのマッチングサポート事業局への配置、発注構造の調査・分析や大規模技術展示商談会の開催に加え、県内企業の技術力向上に向けた、ハイテクプラザへの先端機器の導入、技術指導及びセミナーの実施などにより、県内企業の受注機会の拡大や技術力向上を図り、更なる参入促進に取り組んでいく。

Q感染管理認定看護師の養成にどのように取り組んでいくのか。
A 保健福祉部長
新年度から新たに、県外での長期にわたる研修で必要となる受講料、滞在費などへの補助を増額し、資格の取得を促進する。さらに、令和五年度の前半に、養成課程を県内に新たに設けるため、関係団体等と連携し、教育体制の構築を進めていく。

新型コロナウイルス感染症対策

令和4年度当初予算 1,266億3,141万円

引き続き、診療・検査体制の強化や病床等の確保、ワクチン接種に向けた体制整備など、医療提供体制の整備と感染拡大防止に全力を尽くすとともに、新型コロナの影響を受けた中小企業等の資金繰り支援や県内観光の回復に向けた支援など、社会・経済活動の維持、回復の両立にしっかりと取り組んでまいります。

【主な内容】
- 診療・検査体制強化事業（5億3,544万円）
- 感染拡大傾向時一般検査事業（21億7,714万円）
- 入院病床確保事業（298億6,718万円）
- 宿泊療養施設確保・運営事業（107億3,271万円）
- 自宅療養者支援事業（2億2,668万円）
- ワクチン接種事業（24億8,727万円）
- 中小企業制度資金貸付金（657億9,802万円）
- サプライチェーン強化支援事業（2億円）
- 福島空港新型感染症対策事業（4億3,087万円）
- 県産酒流通促進事業（2億420万円）

自民党議員会の活動

ロシアへの抗議決議を可決

3月2日、自民党議員会主導のもと、「ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議する決議」を提出し可決いたしました。

決議では、ロシアによる前代未聞の暴挙に断固として抗議し、即時の攻撃停止と完全撤退を求めるとし、政府に対し、在留邦人の安全確保に全力を尽くしながら、国際社会と強く連携し、経済制裁措置を始めとする厳格な対応をとることを強く求めました。

福島県沖地震への緊急支援策を要望

自民党議員会は、3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震を受け、翌17日災害対策本部（本部長：西山尚利幹事長）を設置し、被害状況の確認と情報収集に努め、20日に内堀知事に対して、災害応急対策などの緊急要望を行いました。

今後も、必要となる施策について、国や県に対して要望してまいります。

発行：自由民主党 福島県議会議員会／住所：福島市中町1−19／TEL:024−523−2310／E-mail:fukusima@pf.jimin.or.jp　ふくしま自民党　検索　最新情報をLINEでお届けします！

令和4年2月 定例県議会一般質問

移住・定住の支援拡充 果樹農家の継承の支援

県が本年度の実施明言

Q福島の未来にかける知事の思いは。
A 内堀雅雄知事
思いは、それを継ぐ者がいる限り、決して消えることはない。福島の復興を願い続けてきた人々の意思は、確実に次の世代にも受け継がれている。私は、こうした世代を超えて共有された揺るぎない復興への思いを改めて強く胸に刻み、更なる復興に向けて一つ一つの取り組みをしっかりと形にし、誰もが夢と誇りを持てる「復興の地ふくしま」の実現に向け、未来を切り拓く挑戦を続けていく。

Qゴルフを通した交流人口の拡大にどのように取り組むのか。
A 企画調整部長
ゴルファーケーションの取り組みを実施している。コロナ禍でゴルフ人気が高まる中、プロ大会も開催されるなどの魅力的なゴルフ場が多いことから、全日本小学生大会の参加者等や首都圏との近接性をいかしたゴルフ愛好者を呼び込むなど、今後ともゴルフを契機とした交流人口の拡大に取り組む。

Q農村における関係人口の創出にどのように取り組んでいくのか。
A 農林水産部長
地域づくりの専門家を活用して、特産物や景観などの魅力を発掘し、その魅力を地域外の方々に理解してもらうため、対面やオンラインによる交流会を実施している。今後は先進事例を参考としたワークショップの開催や地域住民の研修会を充実させるなど、交流に取り組む農村を増やし、関係人口の創出につなげる。

Q県内病院への無線LANの導入支援について、県の考えは。
A 保健福祉部長
新型コロナウイルス感染症対策として、院内での感染拡大を防止するため、国の補助制度が令和2年度及び3年度に実施された。県としては、新しい生活様式に合致し、オンライン面会など、入院患者と家族等のコミュニケーションの確保にもつながる無線LANの導入支援について、国に要望していく。

Q市町村の犯罪被害者等支援条例制定に向け、どのように支援していくのか。
A 生活環境部長
犯罪被害者等を支え、きめ細やかな支援を行うためには、住民に身近な市町村の体制整備や取り組みが重要であることから、その土台となる条例の制定を促進していく。本年度は3市町村が制定予定。引き続き、市町村説明会の開催や条例のひな形の提供、相談への助言を行うなど、市町村の条例制定を支援していく。

Q県は、農業におけるカーボンニュートラルの実現にどのように取り組んでいくのか。
A 農林水産部長
堆肥や炭化したもみ殻の農地への施用などによる土壌中への炭素の貯留が有効。このため、これらの技術の普及拡大に向け、新年度から、技術導入に取り組む生産組織等を支援するとともに、優良事例を表彰するなど、農業におけるカーボンニュートラルの実現に積極的に取り組む。

Q県は、AIを活用した業務の効率化にどのように取り組んでいくのか。
A 生活環境部長
AIの活用は、音声認識技術を活用した議事録作成支援システムを出先機関も含む全庁に導入しており、昨年度は約1200時間分の打ち合わせや会議等の議事録を自動作成するなど、業務の効率化に活用している。進化するAI技術を各分野に積極的に取り入れることで、効率的な行政運営に努める。

Q県は、農作物の品種開発にどのように取り組むのか。
A 農林水産部長
農作物の品種開発は14品目で48品種を開発しており、現在は果樹や水稲など10品目について、JAグループとの共同事業でDNA解析や生育促進などの先端技術を活用し、開発期間の短縮を図りながら進めている。今後とも、市場ニーズ等を踏まえ、気候変動に対応しながら、特色ある品種の開発に取り組む。

Q国内の特定家畜伝染病の発生事例を踏まえ、どのように防疫対策の強化に取り組むのか。
A 農林水産部長
発生した県への家畜保健衛生所の職員を派遣する中で、現場の指揮命令系統の重要性を再認識したことから、リーダーとなる獣医師を対象として、実践的な訓練を実施するなど、引き続き防疫対策の強化に取り組む。

Q営業終了後の県庁食堂跡地について、どのように利活用していくのか。
A 総務部長
臨時的な執務室やミーティングスペースとして使用しながら、情報発信やイベントなど将来的に考えられる様々な用途について検討する。今後、各部局への二ーズ調査を行うとともに他自治体等の事例も参考にするなど、県庁舎の限られたスペースの有効活用に取り組む。

Q県警察における若手警察官の育成の取り組みは。
A 警察本部長
若手警察官の育成については、警察署においては、実習としてすべての部門で指導員から教養を受けるほか、実習の終了後も若手地域警察官育成プログラムにより実績管理と計画的指導を行っており、今後も、早期育成に向けた取り組みを効果的に推進していく。

要望が実現しました

飯坂トンネルの照明LED化

福島市飯坂町の国道399号・飯坂トンネルの照明の改善について、地域住民の方々から要望を受けました。同トンネルを利用する地域住民らから、「あまりにも暗すぎる」や「防犯面でも不安がある」などの意見が寄せられました。

現地調査を含め、その住民の方々の思いを報告書にまとめ、県北建設事務所に提出しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、海外から部品が輸入できないなどの理由で時間は要しましたが、県当局をはじめ、関係各位のご尽力のおかげで、飯坂トンネル照明の改善、LED化が実現しました。

▶令和4年3月3日（木）福島民報

「お試し移住」でギャップ解消
県が新事業、定住促進へ
▲令和4年3月3日（木）読売新聞

「お試し移住」モデルづくり
移住者との交流機会確保へ
◀令和4年3月3日（木）福島民友

果樹園の継承取り組み支援
▲令和4年3月3日（木）福島民友